

コンクリートテクノプラザ2008 アンケート調査結果

平成20年7月22日

(社)日本コンクリート工学協会
コンクリート工学年次大会2008 福岡
コンクリートテクノプラザ部会

1. 調査の概要

- ① 調査日：2008年7月9日(水)～11日(金)
- ② 調査対象：コンクリートテクノプラザ2008の来場者
- ③ 調査場所：福岡国際会議場 多目的ホール コンクリートテクノプラザ会場内
- ④ 調査方法：アンケート用紙への記入方式
- ⑤ 回答者数：183人
- ⑥ 調査項目：
 - ・ 来場者の所属団体、所属団体の業種、所属団体のテクノプラザへの出展の有無
 - ・ 来場者の職種、勤務地、ユーザーの割合
 - ・ 福岡大会参加の目的、テクノプラザ来場の目的、興味・関心のある出展分野
 - ・ 展示会場の印象、技術紹介セッションの運営について
 - ・ 来場目的の達成度（満足度）、次回来場の期待度

2. 来場者数データ

コンクリートテクノプラザ3日間を通して、来場者数は延べ7437人であった。日別の内訳としては、表-1に示す通り1日目に3625人の来場者があり、全来場者数の約半数が初日に来場した。これは初日に、約700人の参加があった生セミナーが開催された影響が大きいものと考えられる。なお、生セミナーは予定時刻の17時より大幅に遅れて終了したため、生セミナー終了後の来場者が期待より少なくなった。生セミナーの終了時刻を16時30分以前に計画すれば、初日で200人以上の来場者の上積みが可能であった。このことは、表-2に示すように、1日目の開始から7時間後（17時）以降に102人の来場者（セミナーを途中退室したものも多く含まれる）があったことから裏付けられる。

表 - 1 テクノプラザ来場者数

日別来場者数(人)	1日目	2日目	3日目	3日間合計
		3625	2398	1414

* 来場者数は会場に入った延べ人数

表 - 2 時間別累積来場者数

時間別累積来場者数(人)	1日目	2日目	3日目
開始から2時間後	1157	513	400
4時間後	2663	1201	997
6時間後	3352	1792	1414
7時間後	3527	2377	-
約7.5時間後(最終)	3625	2398	-

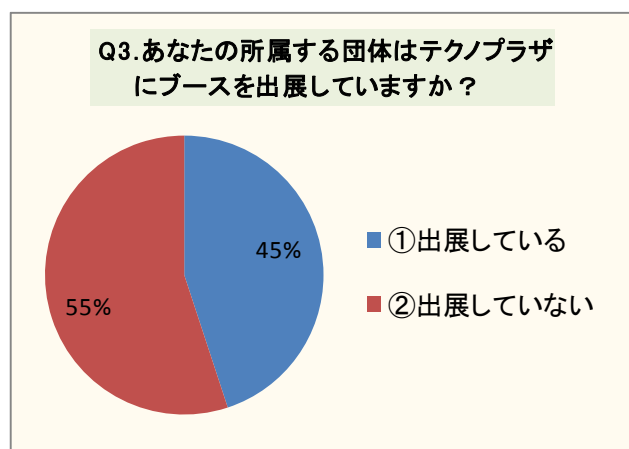
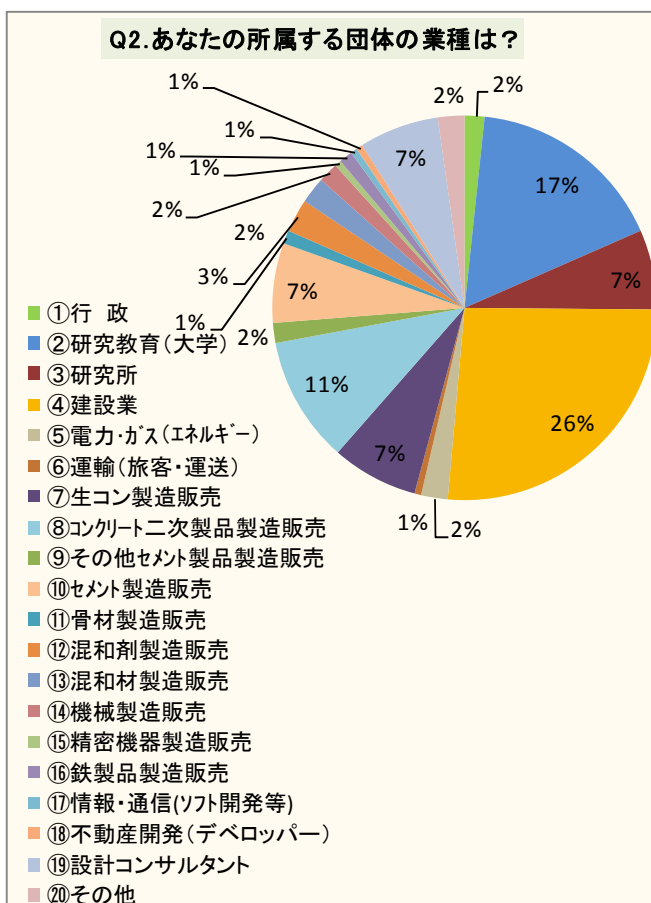
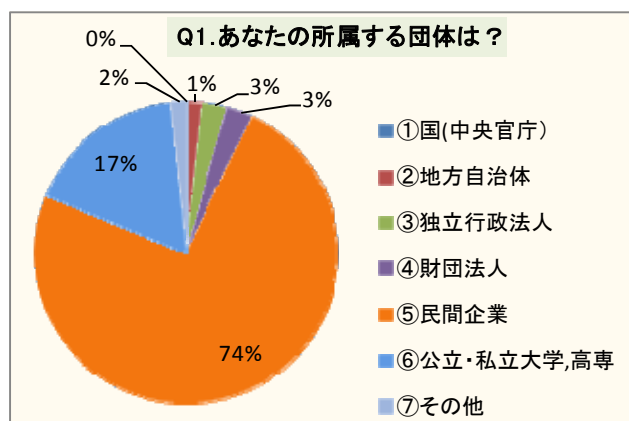
3. アンケート集計結果

(1) 来場者の所属団体、所属団体の業種、所属団体のテクノプラザへの出展の有無

Q1の集計結果より、テクノプラザの来場者としては、「民間企業」からの来場者が最も多く全体の74%を占める。次いで、学生および教員が所属する「大学・高専」が17%となっている。公的機関からの来場者は全て合わせても数%に過ぎない。

来場者の所属する民間企業の業種について、Q2の結果から見ると、「建設業」が第1位で、第2位が「コンクリート二次製品製造販売」、第3位が「生コン製造販売」、「セメント製造販売」、「設計コンサルタント」等の順となっている。

来場者の所属する団体がテクノプラザに出展しているか否かの問い(Q3)に対しては、55%の来場者が「出展していない」と答え、出展ブース関係者以外の来場者の方が多い結果となった。



(2) 来場者の職種、ユーザーの割合、勤務地

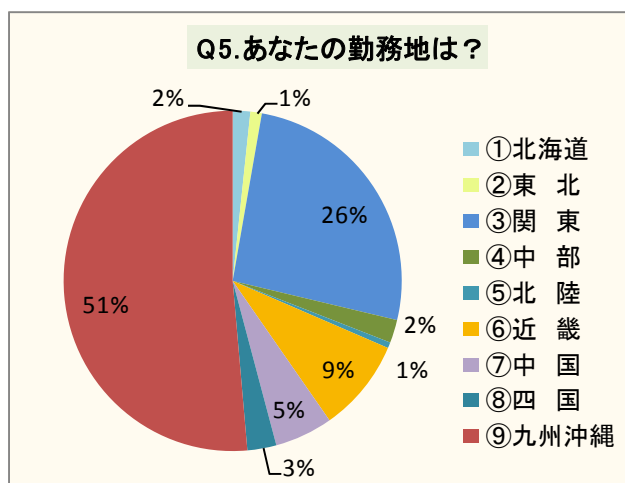
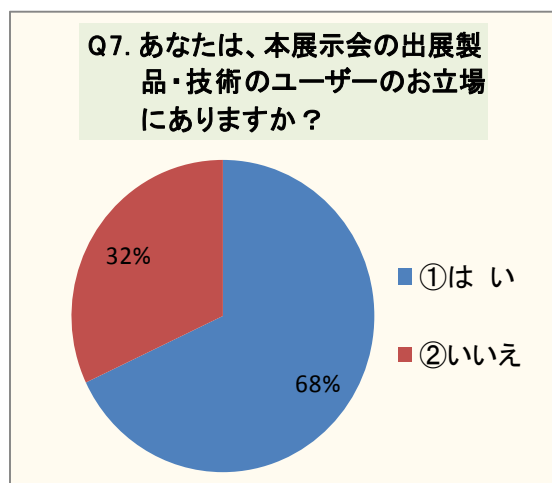
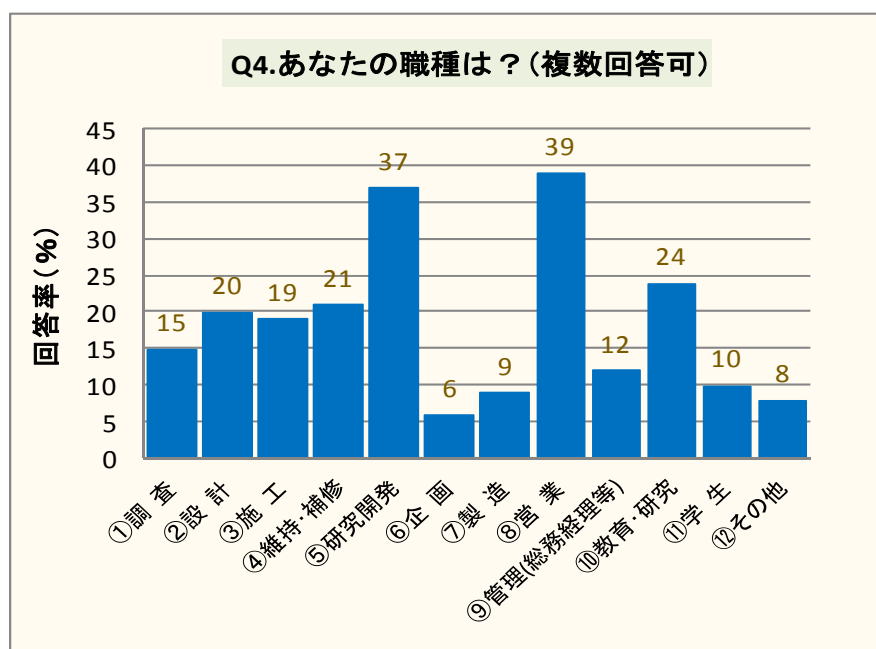
テクノプラザ来場者の職種で最も多いのは「営業」で、全体の39%となっており、次いで「研究開発」の37%となっている。3番目の「教育・研究」と回答したのは、主に大学・高専の教員である。以降、ほぼ同率で「維持・補修」、「設計」、「施工」と続く。また、「学生」と回答した10%は、他の選択肢と重複しないため、延べ来場者数7437人の10%、すなわち約740人が学生の延べ来場者数ということになる。

来場者が出展製品および出展技術のユーザーであるかを聞いた問い（Q7）に対しては、68%がユーザーであると答えた。但し、ユーザーという言葉の意味を実際に製品・技術を使う者と捉えたのか、Q4において「営業」と答えた来場者の一部はユーザーでは無いという回答が見られた。製品・技術の購入から使用に至るまで、関係する者を全てユーザーとする題意であったため、実際には学生（10%）を除くおよそ90%の来場者がユーザーと考えて良いだろう。

来場者の勤務地を調べた結果（Q5）からは、当然のことながら「九州・沖縄」が最も多く、全体の半数を占めた。次いで「関東」の26%、「近畿」の9%となった。九州・沖縄地区の8県内では、「福岡県」が地区

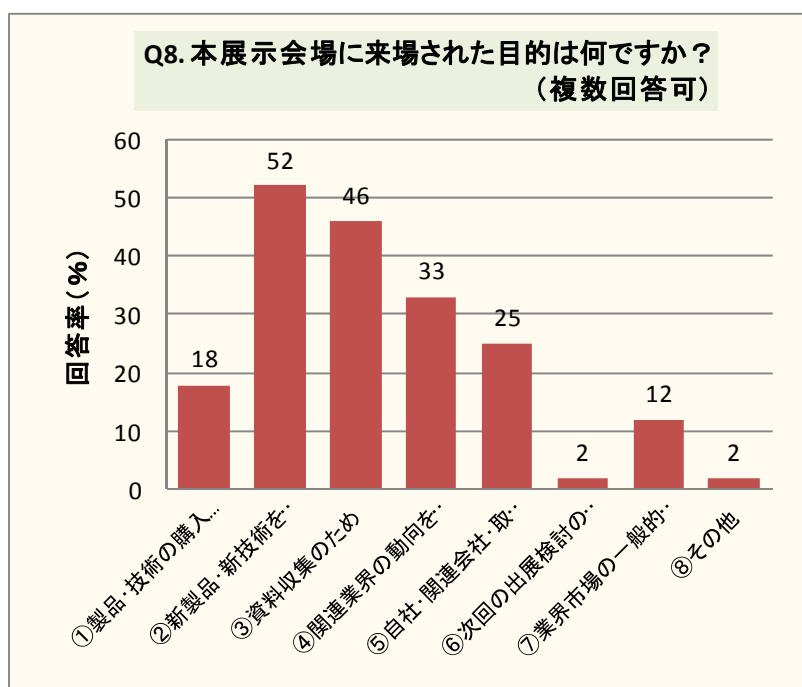
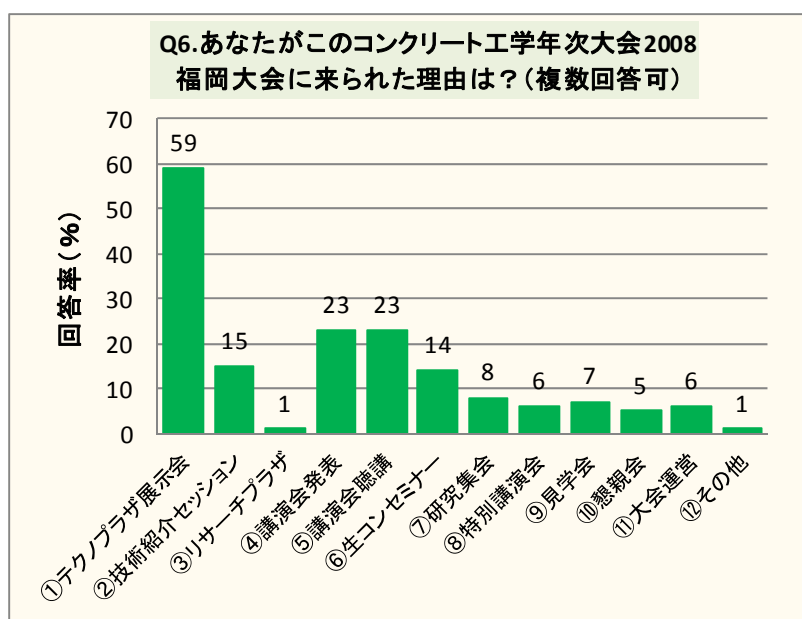
全体の73%と大多数を占めた。

なお、今大会では特に、中国および韓国からの来場者が会場内に多く見られた。しかし、アンケートが日本語版のみしか用意されておらず、海外からの来場者の人数は統計上把握されていない。

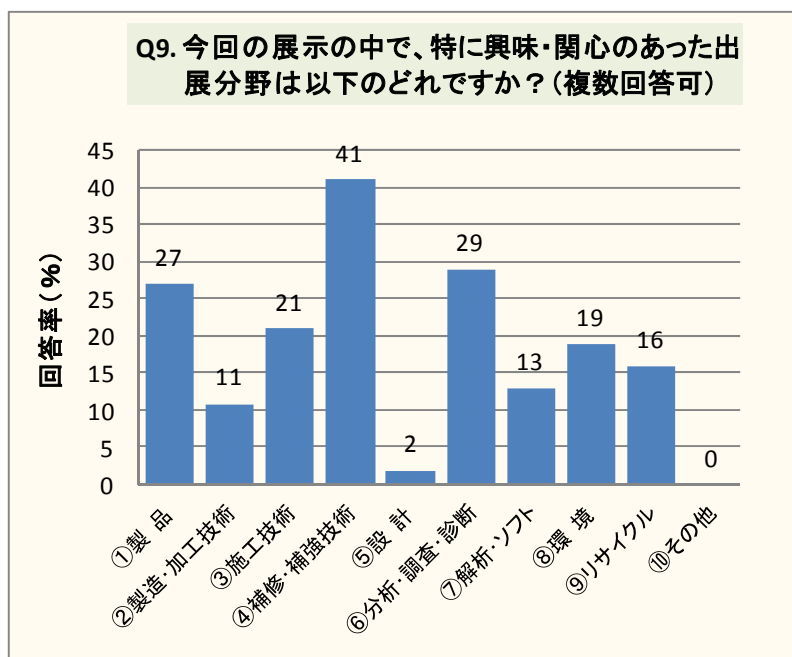


(3)福岡大会参加の目的、テクノプラザ来場の目的、興味・関心のある出展分野

コンクリート工学年次大会2008福岡大会では、Q6に示すように多くのイベントが企画されたが、その中でも「テクノプラザ展示会」を大会参加の目的とした来場者が最も多く、全体の6割にも及ぶ。「講演会発表」および「講演会聴講」、「技術紹介セッション」がこれに続くが、回答率はいずれも「テクノプラザ展示会」の半分以下であるように、「テクノプラザ展示会」の人気の高さが伺える。なお、「テクノプラザ展示会」と答えた来場者の半数は、アンケートの回答で他のイベントの選択肢に○を付けていない。すなわち、「テクノプラザ展示会」だけを見るために大会参加した来場者が、かなり多く存在することを意味している。



- ①製品・技術の購入(導入)を検討するため
- ②新製品・新技術を探するため
- ③資料収集のため
- ④関連業界の動向を知るため
- ⑤自社・関連会社・取引先のブース見学のため
- ⑥次回の出展検討のため
- ⑦業界市場の一般的興味から
- ⑧その他



テクノプラザ展示会に来場する目的としては、Q8に示すように「新製品・新技術を探すため」の回答が最も多く、来場者の半数がこれを目的としていることが分かる。ちなみに「新製品・新技術を探すため」と回答した来場者の17%が「製品・技術の購入（導入）を検討するため」と重複回答しており、積極的な購買意欲を持って新製品・新技術の研究を行っているものと考えられる。また、回答率第2位および第3位が、それぞれ「資料収集のため」および「関連業界の動向を知るため」であることから、各ブースを漫然と見学する来場者よりも、高い目的意識を持って展示会に参加している来場者が多数いることが分かる。

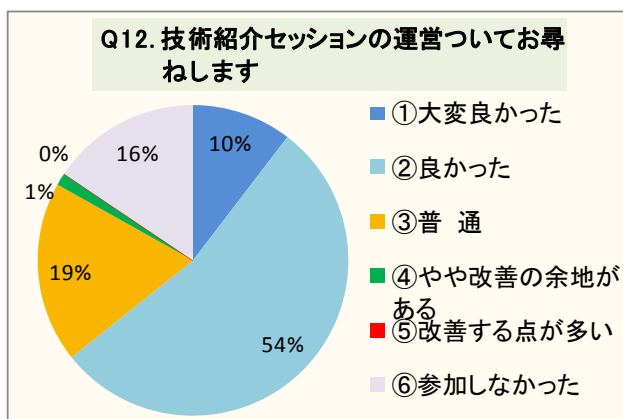
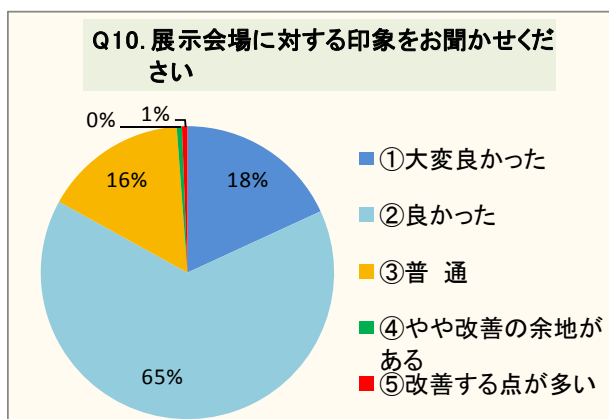
来場者が特に興味・関心を持った出展分野は、Q9に示すように「補修・補強技術」が最も多く、次いで「分析・調査・診断」となっている。これは最近の建設業界の動きを反映するものではあるが、今回の展示会では長寿命化技術や検査装置などを展示内容としたブースが全体の半数以上を占め、これが回答率に影響を及ぼした可能性がある。

Q2で述べたように民間企業からの来場者の職種として多いものは、建設業、コンクリート二次製品製造販売、生コン製造販売、セメント製造販売の順となっている。それぞれの職種の来場者が関係のある「製品」、「施工技術」、「製造・加工技術」に興味・関心を持つのは当然のことであり、その基調が回答率に表れている。但し、これらの職種の来場者の多くが「補修・補強技術」、「分析・調査・診断」、「環境」、「リサイクル」を重複して回答しており、職種（専門）に捉われず興味・関心を持つ分野が幅広くなってきたことを意味している。

(4) 展示会場の印象、技術紹介セッションの運営について

来場者にテクノプラザ展示会場の印象を聞いた質問Q10からは、「大変良かった」が18%、「良かった」が65%となっており、これらを合わせると83%の来場者が展示会場に良い印象を持ったことが分かる。アンケートに改善点として具体的に指摘された事項には、“場所によっては通路が狭い”、“壁向きのブースは配置が悪い”、“会場が暑かった”、“展示件数が少ない”があり、次年度のテクノプラザではこれらを改善できるよう努力したい。

技術紹介セッションの運営について尋ねたQ12からは、「大変良かった」と「良かった」を合わせると64%となり、多数の来場者から高い評価を得たことが分かる。技術紹介セッションの聴講者は1社当たり平均25人程度であったが、技術紹介セッションに「参加しなかった」と回答した来場者が16%もあり、今後、技術紹介セッションへの動線の拡充や開催のアピールを積極的に行っていく必要があるものと考えられる。



(5) 来場目的の達成度(満足度)、次回来場の期待度

テクノプラザへの来場の目的についてはQ8に示した通りであるが、来場の目的を達成できたかを来場者に質問した。回答結果はQ14の通り、「満足」が14%、「ほぼ満足」が57%となっており、これらを合わせると71%の来場者が来場の目的を達成したことになる。このような高い達成度(満足度)が得られた理由としては、幅広いニーズに対応した出展内容、新技術・新情報の積極的な開示の姿勢、懇切丁寧なブース説明員の対応、ブース展示品やパンフレットの充実など、出展者の多大なる努力によるところが大きい。あらためて、心より感謝の意を表する次第である。

次回の年次大会でテクノプラザへの来場の意向を調査した結果(Q15)からは、38%の来場者から「必ず来場する」という回答が得られた。これに「多分来場する」の56%と合わせると、94%の来場者が次回も来場する可能性が高いことが分かる。

以上の結果より、来場者のテクノプラザへの評価は高く、また来場者の期待にも十分に込えているものと考えられる。出展者から、製品・技術の新規契約を結ぶことができたという声も聞かれた。今回のアンケート調査からは、そのような直接的な営業効果は把握できないが、来場者（ユーザー）の評価結果より、テクノプラザは“企業・団体の知名度、イメージ向上”、“新技術・新製品の情報発信源”、“ユーザーと企業・団体との情報交換の場”として、営業・広報活動に大きな効果があったものと考えられる。

